

2024年2月28日

2023年度聖路加国際大学大学院 看護研究科

課題研究

中学1年生への性教育における保護者の学校および医療者に対する意識

Parents' Perceptions toward Health Care Providers in Sex Education for First-Year Middle School Students

学籍番号: 22MW009

氏名: 下村亜実

## 要旨

〔目的〕 中学 1 年生の保護者が考える性教育の内容と学校での性教育に対する理解の現状、家庭で行っている性教育の現状を明らかにするとともに、学校と外部講師である医療者それぞれが行う、性教育の内容や担う役割について保護者が意識することについて明らかにすること。

〔方法〕 中学 1 年生の子どもがいる保護者 3 名を対象に、オンラインにて半構造化インタビューを行い、保護者が考える性教育の内容と家庭で行っている性教育の現状、及び、医療者が外部講師として行う性教育に対し、保護者が期待していることについて、該当する内容を取り出し、語りをコード化し、要約をまとめてカテゴリー化した。分析過程ではスーパーバイザーによる指導・助言を受けて信頼性及び妥当性の確保に努めた。

〔結果〕 研究対象者 3 名に対して実施したインタビューの分析から、11 個のカテゴリーと 27 個のサブカテゴリーが生成された。まず、保護者が認識する性教育の内容は【妊娠までの身体の準備と過程】と【性犯罪予防】が含まれていた。家庭での性教育は実施している家庭とこれから実施しようと考えている家庭があり、実施している家庭は【子どもからの話を起点に家庭内性教育を展開している】現状や【身近なテーマに限定して家庭で教育している】、【関心を持ちそうな段階に家庭主体で教育している】現状があった。一方で、まだ【必要性を感じているものの今家庭で教えることへの抵抗がある】現状や【家庭内教育の展開方法がわからないことが実践の阻害因子となっている】ことが示された。最後に、保護者は学校での性教育において外部講師として医療者が【専門家として最新の情報や視点を提供】すること、【性行動によるリスクを伝える講義の実施】をすること、【困ったときに相談できる存在】になることを期待していた。子どもに対する性教育のみならず【保護者向けの家庭内性教育を提供するための講義を実施】することへのニーズもあった。

〔結論〕 保護者の性教育の認識は国際セクシュアリティ教育ガイダンスの内容と照らし合わせると限定的な内容であった。社会的課題が変化すると保護者の性教育の認識も変化していくことが考えられる。家庭内性教育においては、中学 1 年生では性教育の実施がまだ早いと考える保護者と小学校高学年が適切と考える保護者がいた。医療者に対して保護者向けの性教育に関する講義のニーズがあることも踏まえると、保護者に対する家庭内性教育の講義の実施が家庭内性教育の促進に繋がるのではと考える。医療者は学校と協働しながら第三者として正しい知識や最新の情報、性行動によるリスクを伝えること、第三者として相談できる立場として機能することが求められていることが示唆された。